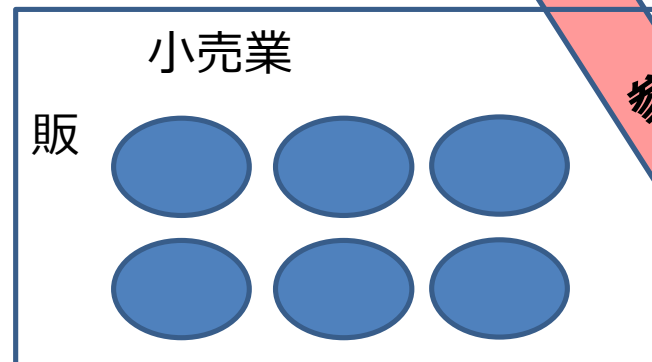
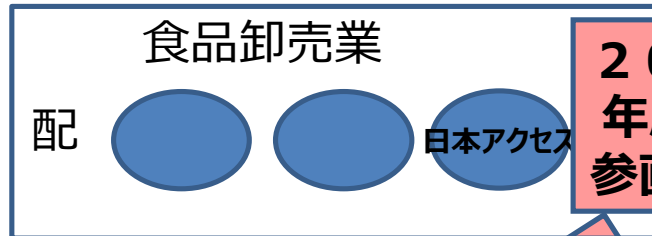
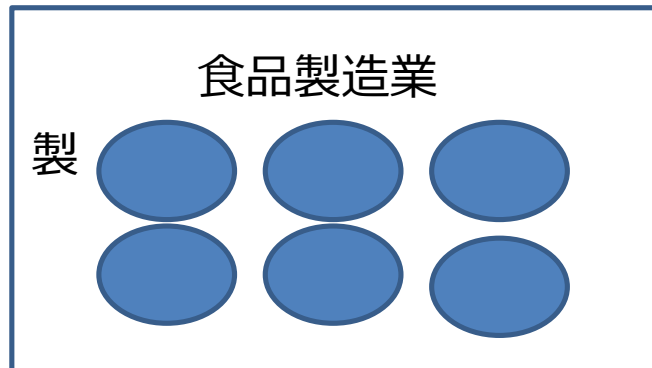


PHASE1「ロスを出さない」ために、商習慣見直しなど、業界を挙げて取り組むべき課題については、製、配、販の事業者、行政、業界団体などが連携して対策を行っており、当社も積極的に参画しています



2022
年度より
参画開始

参画

農林水産省補助事業

「食品ロス削減のための商習慣検討ワーキングチーム」

座長:専修大学 渡辺達朗教授(商学部長)

事務局:公益財団法人 流通経済研究所

フードチェーン全体で解決する必要がある課題について、製・配・販の話し合いの場を設置し、その取組を支援

①加工食品検討チーム

②日配品検討チーム

参加者…メーカー7社、食品卸1社(当社)、小売業3社、業界団体、有識者、官庁(農林水産省)

課題…販売期限の延長、発注情報等の早期共有など

参画

業界団体:日本加工食品卸協会(日食協)

関連テーマの情報共有を行い、業界標準としてのルールや協業できる取組を検討

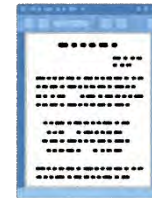
- ・環境問題分科会
- ・SDGs分科会

PHASE1の対策を行っても商品が滞留、納品期限オーバーとなった場合、多様な販売チャネルを活かし、いかに「売り切る」か、を考えます。以下、営業と物流が連携して成果を挙げた事例を紹介します

－ 本社の営業部署と支店の物流部署の連携成果事例 －

連携して拡売、管理を行い、大幅に食品廃棄を削減しました

- ・季節スポット商品の取り扱い
得意先との商談内容（価格・数量・終売時期）
を記載した『商談メモ』に双方押印、共有
- ・留め型品の現状在庫報告
追加製造量、納品期限、残在庫状況等を物流と営業で
日々共有し、 随時消化スケジュールを擦り合わせ
（メーカー様・当社営業/物流・得意先様の3社間で協働！）



過去3年で
A支店の食品廃棄量
約6割(18⇒7トン)削減！

－A支店の担当者 Tさん－

営業・物流どちらかに負担をかける
のではなく、互いに協力し「少しでも
食品ロスを減らす」という目標を共有
出来たのが、結果に繋がったと思います。

PHASE1の対策を行っても商品滞留化、納品期限オーバーとなってしまった場合、多様なチャネルとの連携を活かし、いかに「売り切る」か、を考えます。以下、インターネットチャネルとの連携事例を紹介します。

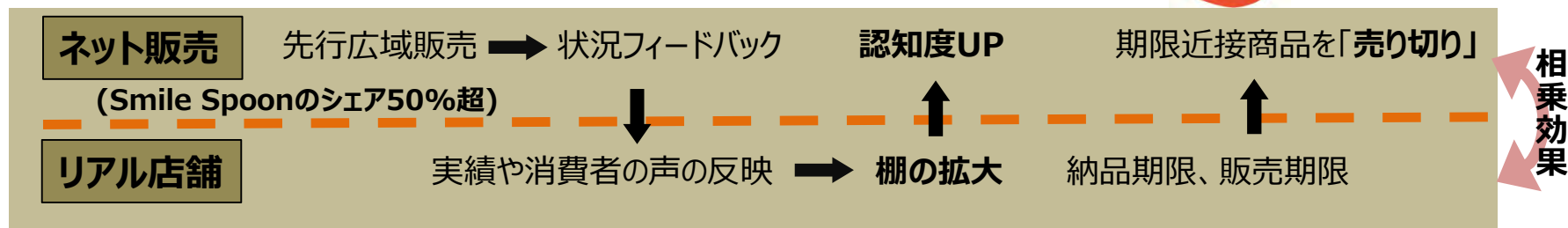
1. 当社のEC店舗「Smile Spoon」の活用

－ Amazon、楽天、Yahoo等を通じ消費者に直接販売 －



PB商品を「ネット」と「リアル」包括的に取組むことで、商品の良さを説明し、ブランド力・付加価値がUP
⇒ 「売上増+食品ロス削減」を実現

－ 当社の健康志向商品PB 「からだスマイルプロジェクト」の事例 －



売上増加 (2020～2021年度 取組開始前の約 **7倍**) と **「ほぼ廃棄なし」** の両方を実現！

2. ネット事業者のアウトレットショップを活用 期日近接商品を売り切り

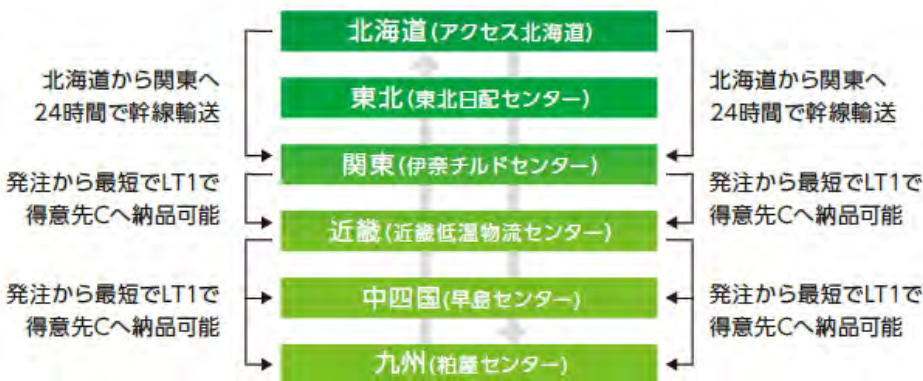
「サプライチェーンに広がる対策」…当社の物流インフラ:全国チルド幹線物流を利用いただくことで、メーカー様や小売業者様に対して、食品ロス削減の手助けをすることができます

- 365日運行の全国チルド幹線物流 - 北海道から関東に一日で牛乳が届く

全国の生産者と全国の消費者をつなぐメインの役割と併せ、

- ・有事の際、不足地への輸送 ⇒ 食の安定供給に貢献
- ・(販売・賞味期限の短い)チルド温度帯商品の広域輸送 ⇒ 食品ロス削減に貢献
- ・小ロット対応可 (基本は1ケース、緊急時は1個から)

事例)ある得意先様で、東日本の店舗在庫が過多になりロスとなりそうなところ、当社の幹線便を使用し西日本の店舗へ納品、ロスすることなく販売



取り扱い実績は2017年度から2020年度で約7倍！

PHASE3「配る」 フードバンクへの寄贈①

自社

配る

売り切る見込みがなくなったら、次は「配る」対策です。全国でフードバンクや子ども食堂、生活困窮者支援等、社会貢献観点で、**必要とされる方々への応援を兼ねて**寄贈を拡大させています

2020年度は大阪、神戸、広島、長野、松山、山口など、全国各地に寄贈を拡大



2020.5～「フードバンク関西」
大阪支店・神戸支店



2020.10～「ホットライン信州」
長野支店



2020.10～「フードバンク山口」山口物流センター

2021年度以降、寄贈のしかたが多様化！

棚割り使用商品を寄贈！



2021.8棚割りに使用したサンプル50ケースを「埼玉フードパントリーネットワーク」へ寄贈(埼玉支店)⇒生活困窮家庭約800世帯に配布

災害用備蓄食糧を寄贈！



2021.9 期限近接の災害用備蓄食糧1,050食(チキンライス、カレーライス等)を「埼玉フードパントリーネットワーク」へ寄贈(大崎本社)



必要とされる方々へ

プラス、次のスライド

2021年度以降、寄贈のしかたが多様化！ の続き

当社展示会の食品を寄贈
各地の展示会へ拡大！

2022年1月20日～2月4日、各地の当社展示会にて、
多数のメーカー様のご協力をいただき、展示品の寄贈を行いました。

1/21 西日本フードコンベンション



- ・寄贈先：認定NPO法人フードバンク関西
- ・重量：約2.2 t

1/27 東日本フードコンベンション



- ・寄贈先：NPO法人埼玉フードバントリーネットワーク
- ・段ボール：328箱

2/1 中四国エリア展示商談会



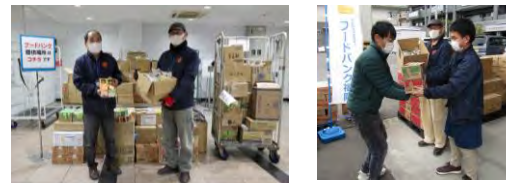
- ・寄贈先：北長瀬コミュニティブリッジ
- ・重量：278kg

2/2 中部エリア展示商談会



- ・寄贈先：認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋
- ・重量：1,629kg

2/4 九州エリア展示商談会



- ・寄贈先：NPO法人フードバンク福岡
- ・重量：584kg

災害による破損品を寄贈！

1. 関東エリア



2021年10月7日に関東地方で発生した地震による破損商品を、10月29日（金）NPO法人 埼玉フードバントリーネットワークに寄贈しました。

2. 東北エリア



2022年3月16日に福島県沖で発生した地震による出荷できなくなった商品を、NPO法人ふうどばんく東北 AGAINに寄贈しました。

寄贈商品
伊右衛門、南アルプス天然水、グリーンダカラ、
カップラーメン、片栗粉など、
合計60パレット 1,288ケース